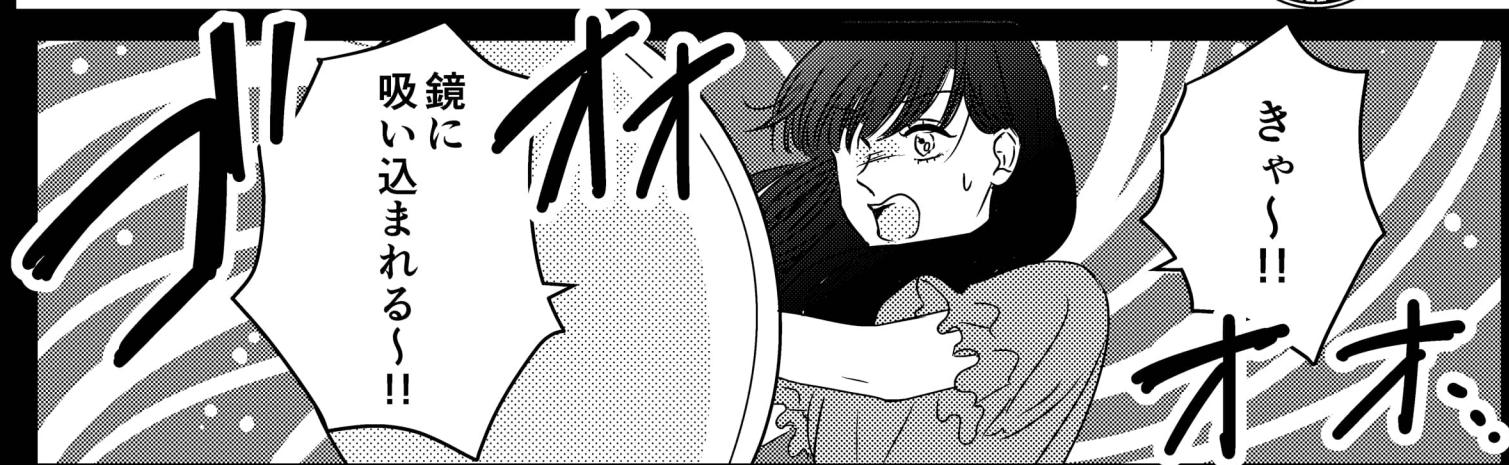




演劇ユニット：言葉の動物 act. 23 西口千草追悼公演
「ありがとう。宙を舞う、
わたしの遺した言葉たちがいま、つながる」



9月14日(日)・15日(月) 武蔵野芸能劇場
前売り：4,500円/当日：5,000円

※他4作品・短編集の公演です。

「ありがとう。宙を舞う、わたしの遺した言葉たちがいま、つながる」

ご挨拶：正直なところ、またこうして皆様にご挨拶できる機会があるとは思ってもみませんでした。

昨年11月2日の深夜、劇団主宰であり妻の西口千草は静かにこの世を去りました。53年と短い人生でした。

これまで彼女は22回の公演全ての作品を自身の体験、想いを全て曝け出し全身全霊で作品を書き上げ、演出してきました。

言葉の動物こそが西口千草そのものでしたので病状が進行し活動継続が困難になった時これで劇団ももう終わりだと二人で涙を流しました。

そして千草の葬儀の際に、参列いただいた過去の出演者の方々から「ぜひ追悼公演を行いたい」とのお声をいただきました。

当初、そのお気持ちは大変嬉しかったものの「誰が千草の代わりなどできるだろうか、ましてや私など」と考え、ためらいがありました。

しかし私も心から千草を追悼したい、そして未公開となってしまった作品について本人もさぞ心残りであろうと深く思い悩んだ末、

私が演出を担当し公演を行うことを決意いたしました。

千草の代わりは誰にも出来ません。私は私に出来ることを精一杯行い、作品を昇華させたいと願っております。

内容は短編5作品で、言葉の動物のいわばベスト盤です。その想いと作品を、皆様に見届けていただけますと幸いです。 西口 卓男



芳尾孝子



南サトル



石原絵美子



下山はるみ



由良瓈砂 (YScompany) 坂本千聰



紬葵ありさ



畠中瞳



廣瀬東洋



大野祐加



有里林檎



坂本鈴菜



田村桃歌



作・西口千草



工藤秀昭



高野あっこ



新田大輝

柏木志津子
(ボランの広場)

小川忠助



渡辺剛志

小島美織
(山王プロダクション)

○日程：(ペーちゃん組)：9月14日(日) 13時／15日(月) 17時

(チーコ組)：9月14日(日) 17時／15日(月) 13時

白色の枠は全日程出演 (開場は各開演の30分前からです)

○会場：武蔵野芸能劇場 東京都武蔵野市中町1丁目15番10号 (JR「三鷹駅」北口より 徒歩1分)

カンフェティ

○販売：カンフェティ／前売：¥4,500 当日 ¥5,000 ♥ご予約：ご来場チケットは(右のQR)：カンフェティにて



◆STAFF 作：西口千草 演出・音響：西口卓男 舞台監督：鈴木龍男 照明：山本良則 美術：工藤秀昭 協力：樋川恵利

5つの作品のストーリー (★：未公開作品)

『三日月は欠けた月なんかじゃない』アタシは足りない人だから何かを足さないと100にならない…と思い悩むOLの一人芝居。

『はじめの呼吸とおしまいの呼吸』これから生を授かる胎児と、生を終える老人を通して人間の「命」の意味について考える。

『アニマライズ！』★女の子だから、子供だから、というカテゴライズから不思議な夢をとおして主人公のヒマリが解き放たれる物語。

『主人公不在』★仲のよくな四人兄弟姉妹が父の四十九日を迎える、そこへ父の愛人の娘、縁子が訪れる…。

『ミガカヌカガミ』靈力を持った祖母の力を借り、家族全員が不幸な目に遭わないパラレルワールドを選択したい主人公七瀬だが…

『理想の葬儀』西口千草 2008/4/16/Wedのブログより故人を偲んで。先日の日記で、子供のクセに死のことはばかり考えていた自分を披露したが、最近はかなり死というものを前向きに考えている。(つーか、そんなことを考えていること自体後ろ向きか…)

例えば…死ぬのは桜の季節がいい。何か大きな仕事を成し遂げたあと、花見を兼ねた打ち上げのようなものに参加し、そこで久々に酒をひっかけ、帰りに少し休もうと腰掛けたベンチでうたた寝。しかしその夜は記録的な寒波が到来、真冬に逆戻り…凍死…ってのが理想的。

葬儀へのお誘いはあらかじめ直筆で書いておき、家族に投函してもらう。「元気？私は死にました」なんて出だしにすっ

か。葉書は虹色のグラデーション…。喪服は厳禁、出来れば派手な服で。

香典ではなく参加費用は1万円ポッキリ！遺影はもう決めてある。犬猫パークで撮った二匹のパグをだいている写真があって、実に幸せそうに写っている。

その頃には私もパグを飼っている予定なのでおめかしさせて参加。菊は陰気なので、菜の花か誕生花のラナンキュラスを使用しようと考えている。

出棺は靈柩車ではなく猫バスが望ましい。

